

# 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター一年報

第 15 号

〔平成 30 年度〕



# 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター年報 第15号〔平成30年度〕

## 目 次

巻頭言	1
I 病院の概要〔平成30年度〕	
1 病院沿革	2
2 施設概要	3
3 診療体制	4
4 診療科概要	
神経内科	5
脳神経外科	7
脊椎脊髄外科	8
整形外科	9
リハビリテーション科	10
麻酔科	11
5 医療安全管理業務	
(1) 医療安全管理体制	12
(2) 取組の概要	13
(3) 主な改善項目	14
(4) 安全管理に係る委員会等の活動状況	15
(5) 安全管理研修等の開催状況	17
(6) インシデント報告の状況	20
II 学術業績〔平成30年度〕	
1 著書	21
2 論文	23
3 学会・研究会	26
業務統計〔平成30年度〕	35

## 巻頭言

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター  
病院長 齋藤 知行

この度の年報の発行に際し、ご協力を賜りました各部局の方々に紙面をお借りして御礼を申し上げます。2019年は天皇陛下の御退位及び皇太子殿下の御即位の年となり、元号も平成から令和に改元され、皇位継承に伴い皇室典範に則り様々な儀式が行われました。即位礼正殿の儀や祝賀御列の儀が厳かで、とても印象深いものでした。また、10月9日に旭化成に所属する吉野彰氏が、リチウムイオン電池の開発でノーベル化学賞を受賞されたという素晴らしいニュースがスウェーデンから届き、日本人として誇らしく思いました。

一方、今年も天候異常が世界各地で顕著化し、猛烈な台風が多発しました。特に、海外のメディアで、Super Typhoon と報道された台風19号は、三連休の初日の10月12日に静岡県に上陸し、その威力は雨、風共に凄まじく、関東、中部、東北地方に甚大な風水害をもたらしました。30を超える河川が氾濫し、道路や橋は寸断され、家屋は浸水し、地方ならびに都市部の水害に対する脆弱性を実感しました。多くの犠牲者にご冥福と被災された方の早期の復興をお祈りいたします。

9月20日からアジアで初となるラグビーワールドカップ2019が日本で開催されました。全国12会場で行われた試合はすべて超満員、各地区に設置されたファンゾーンも大盛況となり、国の威信をかけてぶつかり合うラグビーの醍醐味と素晴らしさを実感しました。特に試合におけるスクラムの重要性に目を見張りました。フロントロウの一人が押し込まれると一気に崩される光景を目の当たりにし、病院運営との共通点を感じました。それは前列が診療科、中列が中央部門、後列が事務職とすると、これからの病院運営ではすべての部門が一つに団結して対処する姿勢が求められる点です。改めて全職員が一丸となって取り組む大切さを教えられました。

さて、平成30年度を振り返ると、主な経営財務分析では、平成27年度に90,000人を超えた延べ入院患者数は漸減し、85,091人に留まり、病床利用率は前年とほぼ同様に77.7%でした。外来患者数は45,750人と昨年を下回りましたが、救急患者数は2,214件と昨年以上回り、入院単価も50,123円と漸増する等良質で高度の医療を提供する体制が整備されてきたことを表しています。また、入退院患者の多くは磯子、南、港南区の住民が半数以上を占め、横浜市の南部医療圏での地域医療を担っていると考えます。

学術業績では26の著書、英語論文11編を含む37の論文が公表され、学会と研究会では、医師以外にリハビリテーション部、画像診断部、検査部、薬剤部、栄養部、看護部から175演題が発表されました。職員の臨床研究に対する意欲は高い水準を維持しています。

また、昨年12月に「脳卒中・循環器病対策基本法」が成立し、今年度は脳血管内治療医を2名増員し、脳卒中医療のコア施設となるように準備を進めてまいりました。外来・入院体制などさらなる整備が必要となりますので、ワンチームで取り組んでいきたいと考えています。

これまでに本院が築いてきた診療体制のさらなる充実と、安全で高度な医療の提供に向けて、職員一同が努力していることを知っていただくために、本年報が一助となれば幸甚です。

令和元年12月

# I 病院の概要

## 1 病院沿革

### (1) 開設目的

人口の高齢化の進展とともに増加の見込まれる寝たきりの最大原因である脳血管疾患について内科的・外科的治療を行うとともに、発症直後から早期リハビリテーションを重点的に行う。

そして後遺症を最小限に抑え、かつ再発を防ぎ、結果として寝たきりを防止し、患者の日常生活の質を向上させる診療を行うことを目的とする。

### (2) 名称

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター(平成27年1月1日変更)

### (3) 所在地

横浜市磯子区滝頭一丁目2番1号

### (4) 建設の経緯

平成 3年 5月	第1回友愛病院基本構想検討委員会(以降平成3年9月まで延べ5回開催)
平成 3年10月	友愛病院(再整備)基本構想策定
平成 5年 5月	衛生局病院事業課に友愛病院再整備担当を設置
平成 5年10月	脳血管医療センター整備(友愛病院再整備)基本計画策定
平成 6年 3月	脳血管医療センター整備計画決定
平成 7年 3月	病院開設許可
平成 7年12月	脳血管医療センター建設工事着工
平成 9年 4月	衛生局脳血管医療センター開設準備室設置
平成11年 3月	脳血管医療センター竣工
平成11年 8月	脳血管医療センター開院(センター215床・老人保健施設40床の開院)
平成12年 4月	介護老人保健施設40床開床(計80床)
平成12年 6月	脳血管医療センター85床開床(計300床)

### (5) 病院建設事業費及び財源(単位:千円)

病院建設事業費					
システム 開発費	実施設計・ 設計監督費	建築工事費	初度調弁費	その他	計
273,791	814,172	24,201,672	3,489,020	653,929	29,432,584

財 源				
国補助金	県補助金	市債	一般財源	計
98,500	170,000	28,226,000	938,084	29,432,584

### (6) 病院長

	氏 名	任 期
初代	本多 虔夫	平成11年8月 1日～平成15年3月31日
2代	山本 正博	平成15年4月 1日～平成17年1月26日
3代	福島 恒男	平成17年1月27日～平成18年1月31日
4代	植村 研一	平成18年2月 1日～平成20年3月31日
5代	原 正道	平成20年4月 1日～平成20年8月14日
6代	山本 勇夫	平成20年8月15日～平成28年3月31日
7代	工藤 一大	平成28年4月 1日～平成30年3月31日
8代	齋藤 知行	平成30年4月 1日～

## 2 施設概要

### (1) 用地

病院棟等	横浜市磯子区滝頭一丁目2番1号	16,168㎡
職員宿舎	横浜市磯子区丸山一丁目26番27号	2,335㎡

### (2) 建物名称及び竣工年月日

建物名	延床面積	竣工年月日	構造
病院棟等	38,737㎡	平成11年3月31日	SRC造
職員宿舎	3,056㎡	平成9年3月31日	
合計	41,793㎡		

### (3) 部門別面積(平成31年3月31日現在)

病棟	HCU・手術部門	2,851㎡
	3階東・西病棟	3,149㎡
	4階東・西病棟・SCU	3,149㎡
	5階東・西病棟	3,149㎡
外来	外来部門	985㎡
	救急部門	273㎡
医療サービス部門	医療相談部門	279㎡
	画像診断部門	1,541㎡
	検査部門	1,826㎡
	薬剤部門	818㎡
	栄養部門	620㎡
	リハビリテーション部門	2,585㎡
管理部門・その他	管理部門	1,546㎡
	医事部門	323㎡
	物品管理・中央材料部門	810㎡
	空調・電気・ボイラー等機械室	2,774㎡
	病歴保管庫	583㎡
	駐車場	7,799㎡
	その他	264㎡
老人保健施設		3,413㎡
合計		38,737㎡

### (4) 病棟構成図(平成31年3月31日現在)

		機械室		
5階		5階西病棟	5階東病棟	
4階		4階西病棟	4階東病棟・SCU	
3階	屋上庭園	3階西病棟	3階東病棟	
2階	介護老人保健施設2階	HCU	手術室、管理、医師室 会議室、図書室	
1階	介護老人保健施設1階	総合受付、外来診療、医事、検査、薬剤 医療相談、防災センター、レストラン、売店、理容室		←センター入口
地下1階	屋外リハビリテーション	救急、リハビリテーション、画像診断、栄養、臨床工学		←救急入口
地下2階		解剖室、霊安室 標本保管庫	駐車場	
地下3階		機械室、電気室		病歴室、中央監視室

### 3 診療体制

(1) 診療科目

神経内科、脳神経外科、脳神経血管内治療科、脊椎脊髄外科、整形外科、  
リハビリテーション科、循環器内科、放射線科、麻酔科

(非常勤科:精神科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科・口腔外科、消化器内科、呼吸器内科、  
糖尿病・内分泌内科、泌尿器科)

(2) 外来診療時間

午前8時45分から午後5時まで(休診日除く)

(休診日)

- ・土曜日、日曜日
- ・国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- ・1月2日、1月3日及び12月29日から12月31日まで

(3) 病床数

センター 300床

介護老人保健施設 80床

病棟別内訳(平成31年3月31日現在)

HCU	6
SCU	12
3階東	45
3階西	46
4階東	37
4階西	52
5階東	51
5階西	51
合計	300

老健1階	40
老健2階	40
合計	80

## 4 診療科概要

### 神経内科

#### (1) 近況

充実した診療体制のもと、神経救急は脳卒中のみならず、痙攣や意識障害に至るまで、初診再来を問わず原則として全て受け入れ可能です。他施設との連携も進み、病理診断や遺伝子診断も積極的に行っています。地域と連携し、神経難病の在宅支援にも一層力を入れてきました。こうした背景により、年間の新入院患者は1,465名に、新規外来患者は2,137名となっています。

また、本格的なめまい診療も行っています。電気眼振計、頭位センサー付きビデオ眼振計、回転刺激椅子、エアーカーリック装置などを導入し、科学的にめまい平衡障害を分析し、治療しています。めまいの患者数も増え、本年度は入院、外来を合わせ、911名が受診しました。

さらに、反復経頭蓋磁気刺激装置を導入し、診療や研究に役立てています。特にめまい平衡障害の分野では、これまでの実績を基にした研究を進め、その成果を基に、新しい治療法の開発を目指しています。

脳・神経の専門施設として医学の発展に寄与するために、臨床研究を多数平行して行っています。前述した磁気刺激装置関連のみならず、他科や他部署(看護部や臨床検査部)と合同で、脳卒中の原因解明や予防、めまいの検査や治療などに関する種々の前向き研究を始動しています。新たな眼球運動検査装置の開発も進み、実用化に近づいているなど、既にこうした研究成果は実を結び始めています。

## (2) スタッフ

(平成 31 年 3 月 31 日現在)

氏名 (補職)	卒業年次・大学	資格・専門医・認定医等	専門分野
城倉 健 (副病院長)	H2 横浜市立大学	日本神経学会専門医・指導医 日本脳卒中学会専門医 日本めまい平衡医学会めまい相談医 日本内科学会総合内科専門医・指導医 神経眼科相談医	脳卒中医学 めまい平衡医学 神経眼科学 神経内科全般
桔梗 英幸 (医長)	H6 浜松医科大学 H13 東京大学大学院	日本神経学会専門医・指導医 日本内科学会認定内科医 日本医師会認定産業医	脳機能イメージング 大脳生理学
工藤 洋祐 (医長)	H14 横浜市立大学	日本神経学会専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本脳卒中学会専門医	神経内科一般
山本 良央 (副医長)	H17 筑波大学	日本神経学会専門医・指導医 日本脳卒中学会専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本頭痛学会専門医 日本脳神経血管内治療学会専門医	脳卒中医療 脳神経血管内治療
菅原 恵梨子	H21 宮崎大学	日本神経学会専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本脳卒中学会専門医	神経内科一般 脳卒中診療
奈良 典子	H21 鹿児島大学	日本内科学会総合内科専門医 日本病院総合診療医学会 認定病院総合診療医、監事	神経内科一般 総合診療
山本 正博	S44 慶應義塾大学	日本神経学会専門医 日本内科学会認定内科医 日本脳卒中学会専門医 日本医師会認定産業医 日本頭痛学会専門医	神経内科一般、 脳血管障害、頭痛 血液凝固線溶

## 脳神経外科

### (1) 近況

当センターで、我々が担当しているのは基本的に脳卒中の外科的治療、すなわち、

- 1) 脳動脈瘤破裂によるクモ膜下出血に対する手術用顕微鏡を用いた動脈瘤頸部クリッピング術
- 2) 高血圧性脳内出血に対する開頭血腫除去術や CT 定位穿頭血腫吸引術
- 3) 浅側頭動脈中大脳動脈吻合術
- 4) もやもや病の血行再建
- 5) 脳動静脈奇形の手術、などが中心です。

ただ、脳卒中の外科治療すべてを開頭手術によるものではなく、それぞれの症例の適応を考慮して血管内手術をも選択しております。

さらに、脳血管障害のみではなく良性脳腫瘍の手術治療も積極的に行うとともに、脊椎脊髄外科と主に脊髄腫瘍の外科治療も行っております。

当センターにある 24 時間稼働している核磁気共鳴装置(MRI)、コンピューター断層撮影装置(3D-CT)、三次元脳血管撮影装置(3D-DSA)などの最新医療機器を用い、外科的治療に携わっています。

毎朝 8 時 15 分から他科との新入患者さんについてのカンファレンスを行い、神経内科やリハビリテーション部による神経機能評価をし、術後早期よりリハビリ訓練を行っております。

他科との連携や患者さんの状態把握をしっかりとよりよい医療を目指しています。

### (2) スタッフ

(平成 31 年 3 月 31 日現在)

氏名 (補職)	卒業年次・大学	資格・専門医・認定医等	専門分野
清水 暁 (医長)	H4 北里大学	日本脳神経外科学会専門医	脳神経外科一般
望月 崇弘 (医長)	H10 北里大学		脳神経外科一般
黒田 博紀 (副医長)	H17 北里大学 H23 岩手医科大学大学院	日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医	脳神経外科一般

## 脊椎脊髄外科

### (1) 近況

脊椎脊髄外科を立ち上げて7年が経過しました。当センターは神経内科・脳神経外科、生理検査・画像診断部門、およびリハビリなど診断から術後まで脊椎の治療を行う環境が既に整っており、外来患者数・手術件数は安定的に増加しております。過去1年間の手術実績は脊椎疾患 318 例あり、成人脊柱変形症や胸椎後縦靭帯骨化症など、いわゆる難治疾患にも積極的に手術を行っております。また、脊髄腫瘍は脳神経外科に協同頂いております。脊椎 instrumentation 手術後の感染を予防するためのバイオクリーン手術室(クラス 7)や instrumentation の精度向上のための navigation と screw 設置後の位置確認が術中に可能となる 3 次元画像の構築可能な X 線透視診断装置(Ziehm Vision)をフル活用し、安全かつ正確な手術を心掛けております。また、病院の性質上、脊椎疾患の最後のとりでですので腰椎術後経過不良例、いわゆる failed back が県外から数多く受診されております。また、少ないながら院内転倒による骨折手術など一般整形手術も行っております。今後は骨粗鬆症・脊柱変形の専門外来、脊髄損傷や横浜市の側弯症学校検診への協力体制を整えるべく準備を進めております。

### (2) スタッフ

(平成 31 年 3 月 31 日現在)

氏名 (補職)	卒業年次・大学	資格・専門医・認定医等	専門分野
青田 洋一 (副病院長)	S62 香川大学	日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会脊椎脊髄病認定医 日本脊椎脊髄病学会指導医	脊椎脊髄外科
河井 卓也 (担当部長)	H11 横浜市立大学	日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会脊椎脊髄病認定医 日本脊椎脊髄病学会指導医 日本整形外科学会認定リウマチ専門医 日本体育協会公認スポーツ医 義肢装具等適合判定医師	脊椎脊髄外科
小林 洋介 (副医長)	H18 金沢大学		脊椎脊髄外科
渡邊 太	H20 福岡大学	日本整形外科学会専門医	脊椎脊髄外科

## 整形外科

### (1) 近況

当科は運動器疾患の中でも、主として膝関節疾患の治療を行います。整形外科が対象とする運動器は骨、関節、神経、筋肉から構成される器官であり、加齢に伴って各組織に退行性変化をもたらし、様々な疾患を発症します。膝や腰の痛みにより、歩行だけでなく日常生活に支障をきたし、内臓疾患や精神疾患を併発する可能性も高まります。超高齢社会を迎えた本邦では、今後さらに患者さんの増加が予想され、介護予防、健康寿命の延伸という政策的医療の視点から「膝関節疾患」の治療に当たります。

現在2500万人が罹患しており、そのうち800万人が痛みのある患者さんであると言われている「変形性膝関節症」などの症状を対象とし、薬物療法、関節内注入療法などの保存療法から最先端の手術支援機器を用いた人工膝関節置換術などの手術療法まで、患者さんの病態に最適な治療を提供します。そして、高齢者のみなさまがいつまでも元気に活動できるようにロコモティブシンドロームへの取組を進めてまいります。

### (2) スタッフ

(平成31年3月31日現在)

氏名 (補職)	卒業年次・大学	資格・専門医・認定医等	専門分野
齋藤 知行 (病院長)	S54 横浜市立大学	日本整形外科学会専門医 リウマチ認定医、指導医、登録医 日本整形外科学会スポーツ認定医 日本整形外科学会脊椎脊髄病医 日本骨粗鬆症学会認定医 日本手外科学会専門医	膝関節 リウマチ 脊椎
小澤 祐樹	H24 神戸大学		膝関節

## リハビリテーション科

### (1) 近況

当科は、脳血管障害を主体に、各種の疾病・外傷などによる、さまざまな障害の軽減を図りながら、社会生活への復帰を一番の目標としています。さらに専門的治療機関として常に高度のリハビリテーションが提供できるよう、治療プログラムの開発にも取り組んでいます。

当センターに救急入院した脳血管障害に対しては、主担当科との緊密な連携の下、超急性期の段階(平成 30 年度平均:入院後 1.6 日)から、多職種によるリハビリテーション介入を開始し、早期の離床を図ることで二次的な廃用性障害の発生を最小限にし、その後の機能回復を早めるように努めています。また継続的なリハビリテーションが必要な方に対しては、リハ科医師を専任医として配置している回復期リハビリテーション病棟(102 床)へ転棟させて、病棟スタッフとの緊密な連携の下に、より集中的なリハビリテーションの提供を行い、高い在宅復帰率を達成しています。このために、祝日や年末年始等も含めた 365 日のリハビリテーションを提供する体制を整えています。

リハビリテーションを提供する上で、他科との緊密な連携を図ることはもちろんですが、科内でも、全員参加での急性期・安定期の回診や補装具外来、嚥下造影検査の実施などを通じて、診療レベルの向上を図っています。さらに、27 年より、HANDS 療法を参考とした上肢への電気刺激療法の施行や、上肢訓練用ロボット Reo-Go-J による治療を開始。また、維持期脳卒中患者の上肢集中治療プログラム(YOKOHAMA-SPIRITS)でも、安定的に症例数を増やしています。さらに、歩行訓練ロボットである HONDA 歩行アシストも導入し、入院されている方の活動性向上に生かしています。

平成 30 年度回復期病棟入院患者内訳

人数:410 人

平均年齢:平均 66.6 才(15~94)

回リハ病棟入院期間:平均 78.7 日

在宅復帰率:87.3%

疾患名	入院人数
脳梗塞	159
脳出血	109
SAH	34
脳外傷	18
大腿骨骨折等	31
脊髄疾患	46
その他	13

### (2) スタッフ

(平成 31 年 3 月 31 日現在)

氏名 (補職)	卒業年次・大学	資格・専門医・認定医等	専門分野
前野 豊 (副病院長)	S60 横浜市立大学	日本リハビリテーション医学会 認定臨床医・専門医・指導医	リハビリテーション全般
小林 宏高 (担当部長)	H4 弘前大学	日本リハビリテーション医学会 認定臨床医・専門医・指導医	リハビリテーション全般
武藤 里佳 (副医長)	H13 横浜市立大学	日本リハビリテーション医学会 専門医・指導医	リハビリテーション全般
高田 薫子 (副医長)	H17 広島大学 H28 横浜市立大学大学院	日本リハビリテーション医学会 専門医	リハビリテーション全般
籠田 雅予	H7 信州大学	日本リハビリテーション医学会 認定臨床医	リハビリテーション全般

## 麻酔科

### (1) 近況

麻酔科は、手術麻酔、集中治療、救急医療などの急性期医療とともに、疼痛を中心とする種々の疾患に対する治療を実施するペインクリニックや、いわゆる緩和医療と呼ばれる終末期医療まで、広範な医療分野を診療の対象としています。

当院の麻酔科の主たる診療内容は、中央手術室ならびに血管撮影室における麻酔管理と高度治療室での重症患者管理です。当院は常に脳卒中急性期治療に対応しており、麻酔科も夜間、休日に関わらず常時これに対応できる体制を整えています。麻酔管理に関しては、当院の手術は緊急開頭手術症例が多く、また呼吸・循環・代謝系などの合併症を有する高齢者が対象となることも少なくないため、麻酔の実施にあたっては患者の安全を第一に細心の注意を払って麻酔管理を行っています。

高度治療室は、重症脳卒中急性期とともに重症感染症や心不全・腎不全などの合併症例が主な入室対象となります。主治医、看護師、臨床工学技士、薬剤師、栄養士とともに毎朝カンファレンスを行い、治療方針を検討・決定しています。とくに呼吸不全症例に対する人工呼吸療法や、腎不全、敗血症等に対する急性血液浄化療法においては、麻酔科医と臨床工学技士が中心となり治療を行っています。

また睡眠時無呼吸症候群外来では、脳卒中との合併率が高く脳卒中の危険因子と考えられている睡眠時無呼吸症候群の診断検査および在宅 CPAP 療法を行っています。

#### 《平成30年度業務実績》

麻酔科管理手術症例数		高度治療室入室患者管理	
神経内科	15 例	神経内科	154 例
脳神経外科	115 例	脳神経外科	117 例
脊椎脊髄外科	318 例	脊椎脊髄外科	210 例
脳神経血管内治療科	40 例	脳神経血管内治療科	56 例
整形外科	47 例	整形外科	33 例
		リハビリテーション科	2 例
総計	535 例	総計	572 例

### (2) スタッフ

(平成 31 年 3 月 31 日現在)

氏名 (補職)	卒業年次・大学	資格・専門医・認定医等	専門分野
坂井 誠 (担当部長)	H4 金沢大学	日本麻酔科学会指導医 麻酔科標榜医	麻酔一般
小林 浩子 (担当部長)	S63 横浜市立大学	日本麻酔科学会専門医	

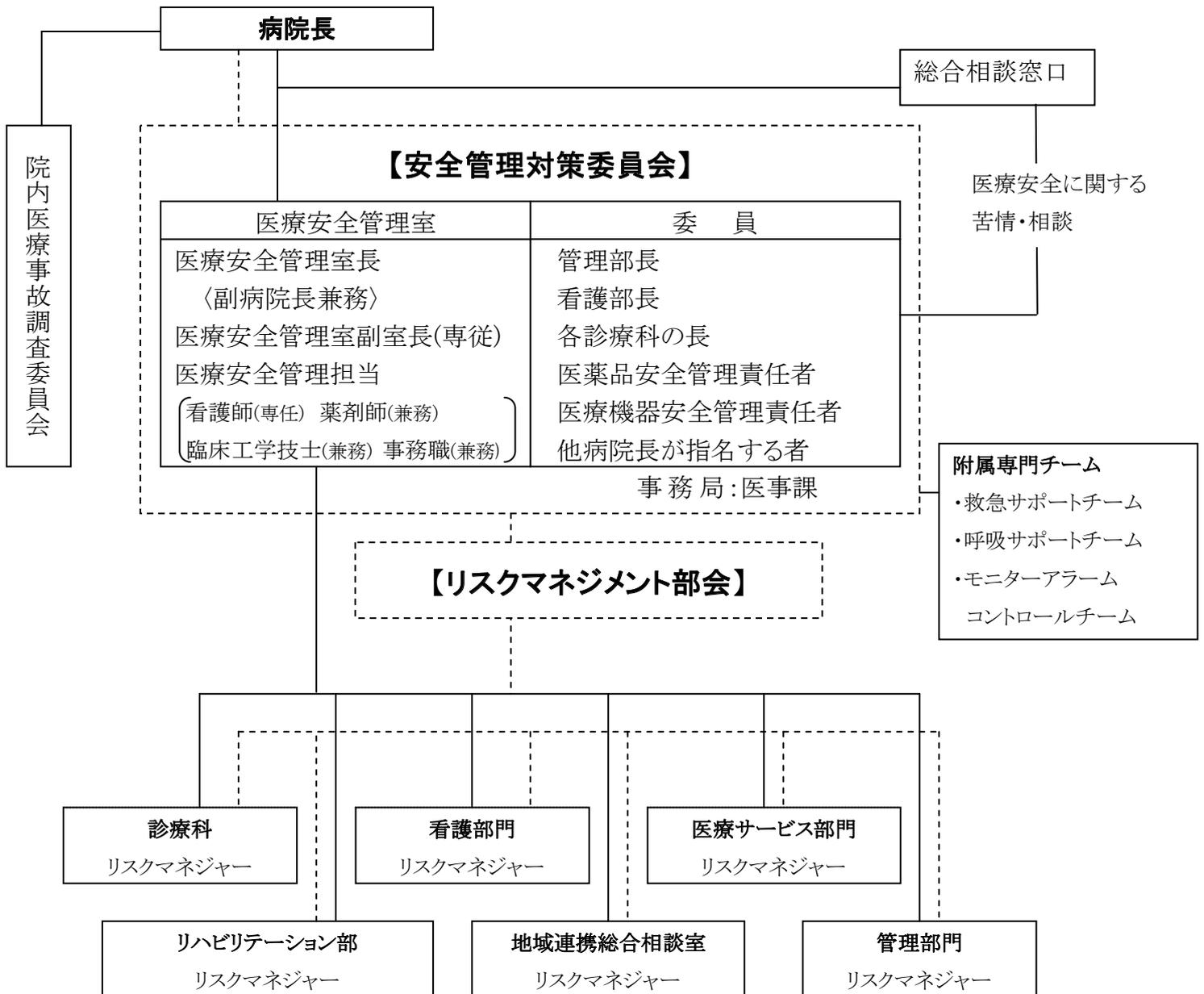
## 5 医療安全管理業務

### (1) 医療安全管理体制

当院における医療安全管理対策の推進を図るために、安全管理対策委員会を設置しています。委員会は、医療安全対策、医療事故防止対策、安全管理研修など、医療安全に関して主導的な役割を担っています。

医療安全管理活動を組織横断的に推進する部門として、医療安全管理室を設置し、室長（副病院長）、副室長（専従の医療安全管理担当）、医療安全管理担当者（専任および兼任）を配置しています。また、各部署で医療安全推進の役割を担う医療安全管理者（リスクマネジャー）を任命しています。

### < 医療安全管理体制図 >



[平成 31 年3月現在]

## (2) 取組の概要

平成30年度は、「1医療安全管理マニュアルを遵守する」、「2インシデント事例を共有し、医療安全行動を推進する」、「3医療安全に関する教育研修の実施と医療安全情報の周知を行う」、「4安全管理対策委員会 附属専門チームの活動が機能する」の4項目を目標に取り組みました。

医療安全管理マニュアルの遵守状況を把握するため、院内巡視を定期的実施し、リスクマネージャーにフィードバックしています。また、巡視時に散見される酸素ボンベの圧抜き・酸素流量計の取扱いの不備については、臨床工学技士がミニレクチャーを実施しました。確認行為の実施状況については、インシデント事例から、看護部の委員会を通じて、事例検討・ポスター掲示を行い、確認行為強化週間を設け啓発活動をしました。1月～2月に全職員を対象とした「確認行為」の自己評価を実施しました。電子カルテ(部門システム)画面の氏名確認の実施率は81.4%で3.3ポイント上昇しましたが、100%を目指し、継続課題として取り組みます。

インシデント事例については、患者影響レベルの高い事例や部門をまたがる事例等について安全管理対策委員会やリスクマネジメント部会で報告し、改善策の共有を図りました。

医療安全に関する教育研修については、院内の全職員が医療安全研修に年2回以上参加できるように、本研修のDVD視聴によるフォローアップ研修を1研修につき25回程度設けました。これにより、研修参加率100%を保持することができました。また、第2回医療安全研修は本研修を2回実施し、本研修への参加率は25.9%と前年度を10.3%上回りましたが1回目の研修参加人数の増加による結果でした。今後、研修の開催時期・方法については検討を継続します。常勤・非常勤を問わず医療安全活動推進のために、医療機器関連では「車椅子の構造と操作上の注意点」、施設設備については「医療用ガスの知識と安全管理方法」の研修を実施するとともに、院内ポータルの掲示板などで随時周知しています。

安全管理対策委員会の附属専門チームは、組織横断的な活動を安定して行っています。救急サポートチーム(EST)は、救急カートの診療材料・薬剤の見直し、BLSの考え方・運用を整理しました。呼吸サポートチーム(RST)は、講演や体験型のブースを設け「医療安全ワークショップ」を12月の全国医療安全週間に開催しました。モニターアラームコントロールチーム(MACチーム)は2週に1度の定期的なラウンドを実施しマニュアルの遵守状況の確認を行っています。

平成30年度は、医療安全対策地域連携加算新設に伴い、連携施設(横浜市立大学附属市民総合医療センター、沖縄徳洲会葉山ハートセンター)との訪問審査・検討会を実施し、情報共有・課題の検討を行いました。

## (3) 主な改善項目

	改善項目	改善内容
(危機管理・薬剤) 基準	救急カート使用 点検状況の確認	・救急カート22台の設置・点検方法を確認した。従来外来看護師が担当していたリハビリテーション部配置の救急カートの点検について、看護師から点検方法を説明指導し、リハビリテーション部職員が担当することとした。
	救急カートの 医薬品・物品の管理	・救急カート内の物品・薬剤の使用状況を確認し、配置数の変更および採血管、ストップウォッチを設置した。
基準	死亡確認後の フロー図の作成	・患者死亡確認後の対応・書類等を整理し、フロー図を作成した。
	解剖に関する フロー図の作成	・患者死亡時の運用に併せ、病理解剖について整理し、書類についても電子化した。（「病理解剖承諾書」「解剖依頼書」）
	「転倒転落リスクアセスメント ツール」の改訂	・平成29年8月～平成30年1月までの6ヶ月間のデータを検証し、「転倒・転落アセスメントツール」の改定を行った。
	新規説明・同意書の作成	・整形外科（膝関節）の機能拡大に伴い「高位脛骨骨切り術 説明・同意書」「高位脛骨骨切り術後抜釘術 説明・同意書」「人工膝関節全置換術」「人工膝関節全置換術（RA）」を作成した。
	MRI問診票の改訂	・インシデント事例から、MRI問診票を外来患者用・入院患者用に変更した。
(マニュアル) 基準	第4版安全管理 ポケットマニュアルの作成	・安全管理対策マニュアル・感染対策マニュアルの変更に伴い、安全管理ポケットマニュアルを更新した。緊急時の外部への連絡先を追加した。
	医療安全管理 マニュアルの更新	・医薬品・医療機器・画像診断部の内容を変更した。薬剤確認行為の5Rを6Rに（目的を追加）変更した。
医療機器	新規・更新の医療機器 についての周知	・フットポンプ更新に伴い、簡易取扱い説明書を作成・設置した。
	AEDの運用について整理	・インジケーター表示×の場合は故障と判断し、使用しない事を決定・周知した。
安全教育	BLS講習会の運用の整理	・当院正規職員を対象に、3年ごとに受講とし、令和元年度・令和2年度は看護部、令和3年度は医師・リハビリテーション部・検査部・薬剤部・画像診断部の受講とした。
	日本医療安全調査機構 「医療事故の再発防止に向けた提言」の活用	・全職員への情報提供のため、院内ポータルに掲載した。

(4)安全管理に係る委員会等の活動状況

開催回	開催日	主な議題
第1回	平成30年4月11日	1 医療安全管理室 メンバー紹介 2 平成30年度 安全管理対策委員会委員・開催予定日・要綱確認 3 平成30年度 リスクマネジメント部会メンバー 4 平成30年3月および平成29年度インシデント報告 5 平成30年3月 医薬品点検結果報告 6 電子カルテ更新に伴うインシデント事例報告 7 総合相談窓口への要望・苦情等件数 8 医療事故調査制度に係る「死亡事例」報告（平成30年3月1日～3月31日） 9 院内ラウンド報告 10 平成30年度医療安全管理活動目標・医療安全研修計画 他 医療安全管理・感染対策マニュアルの更新について
第2回	平成30年5月9日	1 4月インシデント報告件数 2 4月医薬品点検結果報告 3 医療事故調査制度に係る「死亡事例」報告（平成30年4月1日～4月30日） 4 総合相談窓口への要望・苦情等件数 5 安全ラウンド実施報告 6 説明・同意書新規作成 「高位脛骨骨切り術 説明・同意書」 「高位脛骨骨切り術後抜釘術 説明・同意書」 「人工関節全置換術」 「人工関節全置換術（RA）」 7 安全管理対策委員会附属チーム活動計画（EST、RST、MACチーム） 8 「ヘパリンロック」から「生食ロック」への移行について
第3回	平成30年6月13日	1 5月インシデント報告件数 2 5月医薬品点検結果報告 3 3b事例報告 4 医療事故調査制度に係る「死亡事例」報告（平成30年5月1日～5月31日） 5 総合相談窓口への要望・苦情等件数 6 病室・汚物室・食堂等の窓の開放制限について 7 第2回医療安全管理研修開催について 8 「気管切開術」に関する説明・同意書の変更について 9 市立3病院医療安全報告会 10 第1回医療安全・感染・薬剤・医療機器安全管理研修出席状況報告
第4回	平成30年7月11日	1 6月インシデント報告件数 2 6月医薬品点検結果報告 3 総合相談窓口への要望・苦情等件数 4 医療事故調査制度に係る「死亡事例」報告（平成30年6月1日～6月30日） 5 院内ラウンド報告（6月25日） 6 患者死亡確認時のフロー図について 7 日本医療安全調査機構「医療事故の再発防止に向けた提言」について
第5回	平成30年9月12日	1 7・8月インシデント報告件数 2 7・8月医薬品点検結果報告 3 総合相談窓口への要望・苦情等件数 4 医療事故調査制度に係る「死亡事例」報告（平成30年7月1日～8月31日） 5 院内ラウンド報告（7月23日） 6 説明・同意書新規作成 「椎間板酵素注入療法説明・同意書」 7 第2回医療安全管理研修について 8 転倒・転落アセスメントツールについて 9 医療安全対策加算1 医療安全対策地域連携加算1取得について 10 身体抑制について 11 医療法第25条第1項の規定に基づく立ち入り検査について
第6回	平成30年10月10日	1 9月インシデント報告件数 2 9月医薬品点検結果報告 3 総合相談窓口への要望・苦情等件数 4 医療事故調査制度に係る「死亡事例」報告（平成30年9月1日～9月30日） 5 医療安全ラウンド報告 6 立入検査（医療監視）について 7 第1回医療安全・感染・医薬品・医療機器安全管理研修実施報告 8 第2回感染・医薬品・医療機器安全管理研修開催について 9 救急カーットの配置薬について

開催回	開催日	主 な 議 題
第7回	平成30年11月14日	1 10月インシデント報告件数 2 10月医薬品安全管理点検結果 3 3b事例報告 4 総合相談窓口への要望・苦情等件数 5 医療事故調査制度に係る「死亡事例」報告（平成30年10月1日～10月31日） 6 安全管理ポケットマニュアル改定について 7 医療安全対策加算1 医療安全対策地域連携加算1 訪問日について 8 立ち入り検査結果報告
第8回	平成30年12月12日	1 11月インシデント報告件数 2 11月医薬品安全管理点検結果 3 総合相談窓口への要望・苦情等件数 4 医療事故調査制度に係る「死亡事例」報告（平成30年11月1日～11月30日） 5 救急カート物品の追加・変更について 6 医療安全ラウンド実施報告 7 ペースメーカー・除細動器装置等装着患者に対する画像検査について 8 確認行為のアンケートについて 9 手術室借用機器の運用について
第9回	平成31年1月9日	1 12月インシデント報告件数 2 12月医薬品点検結果報告 3 総合相談窓口への要望・苦情等件数 4 医療事故調査制度に係る「死亡事例」報告（平成30年12月1日～12月31日） 5 医療安全ラウンド実施報告 6 医療安全対策加算1 医療安全対策地域連携加算1 訪問結果について 7 「確認行為のアンケート」について 8 AEDインジケータの表示について
第10回	平成31年2月14日	1 1月インシデント報告件数 2 1月医薬品点検結果報告 3 インシデント報告 インシデント事例報告（MRへの吸着）、3b事例報告 4 総合相談窓口への要望・苦情等件数 5 医療事故調査制度に係る「死亡事例」報告（平成31年1月1日～1月31日） 6 ミニレクチャー「酸素流量計」について 7 医療安全対策加算1について
第11回	平成31年3月13日	1 2月インシデント報告件数 2 2月医薬品点検結果報告 3 事例報告（ドライヤーによる熱傷） 4 総合相談窓口への要望・苦情等件数 5 医療事故調査制度に係る「死亡事例」報告（平成31年2月1日～2月28日） 6 医療安全ラウンド実施報告 7 附属専門チーム活動報告 8 確認行為のアンケート結果報告 9 救急カート滅菌手袋の変更 10 BLS講習会の今後の考え方について 11 医療安全管理マニュアルの改訂について

## (5) 安全管理研修等の開催状況

開催月	開催内容	対象者	参加職種	合計	
5月	第1回 医療安全・感染・医薬品・ 医療機器 安全管理研修 「マニュアル・手順書改訂のポイント」  [講師：臨床工学担当係長：青柳、 画像診断部担当係長：戸田、 薬剤部担当係長：五十嵐、 医療安全管理室担当係長：清水] (5月9日本研修)	全職員	医師 看護師 薬剤師 臨床検査技師 臨床工学技士 PT・OT・ST 栄養士 事務 介護福祉士 看護補助者 MSW 委託 その他（職種記名なし）	7名 60名 10名 2名 3名 32名 1名 10名 1名 0名 1名 12名 1名	140名
	第1回 医療安全・感染・医薬品・ 医療機器 安全管理研修 「マニュアル・手順書改訂のポイント」 (5月14・17・21・23・31日)	本研修未受講者	医師 看護師 薬剤師 臨床検査技師 診療放射線技師 PT・OT・ST 栄養士 MSW 事務 介護福祉士 看護補助者 委託 その他（職種記名なし）	4名 184名 7名 10名 14名 50名 3名 7名 33名 2名 31名 85名 9名	439名
	第1回 医療安全・感染・医薬品・ 医療機器安全管理研修 フォローアップ (資料配布・アンケート回収)	本研修・DVD フォローアップ 研修未受講者		86名	86名
6月	看護補助者研修「感染防止対策」  [講師：医療安全管理担当係長：清水] (6月4・18日、7月20日)	看護補助者	看護補助者 介護福祉士	32名 1名	33名
7月	第2回医療安全管理研修 「医療従事者の記録について」  [講師：SOMPOリスクアマネジメント 株式会社 永吉旭土] (7月13日本研修)	全職種	医師 看護師 薬剤師 看護補助者 介護福祉士 PT・OT・ST 臨床工学技士技師 栄養士 MSW 事務 委託	7名 59名 9名 3名 1名 37名 3名 2名 3名 9名 5名	138名

開催月	開催内容	対象者	参加職種	合計	
10月	第2回 感染・医薬品・医療機器安全管理研修 「冬季感染症の予防について ～職場でも家庭でも使える知識～」 「ワクチンに関する知識」 「車椅子の安全管理」  [講師：看護部：小泉感染管理認定看護師 薬剤部：感染制御専門薬剤師抗菌化学療法 認定薬剤師：原 リハビリテーション部（車椅子クリニック チーム）：矢野理学療法士] (10月5日本研修)	全職員	医師 看護師 看護補助者 介護福祉士 薬剤師 臨床検査技師 栄養士 PT・OT・ST 臨床工学技士 事務 委託	3名 40名 3名 1名 9名 3名 2名 27名 1名 7名 9名	105名
	第2回 感染・医薬品・医療機器安全管理研修 「冬季感染症の予防について ～職場でも家庭でも使える知識～」 「ワクチンに関する知識」 「車椅子の安全管理」  (DVDフォローアップ研修) (10月15・18・22・29・30日)	本研修未受講者	医師 看護師 薬剤師 臨床検査技師 診療放射線技師 PT・OT・ST 臨床工学技士 栄養士 MSW 事務 介護福祉士 看護補助者 委託 その他(職種記名なし)	9名 181名 8名 9名 15名 52名 1名 0名 8名 38名 1名 29名 95名 2名	448名
	第2回 感染・医薬品・医療機器 安全管理研修フォローアップ (資料配布・アンケート回収)	本研修・DVD フォローアップ 研修未受講者		110名	110名
11月	第2回 医療安全管理研修 「医療従事者の記録について」  [講師：SOMPOリスクアマネジメント 株式会社 山崎堅司] (11月21日本研修)	全職種・全職員	医師 看護師 薬剤師 臨床検査技師 PT・OT・ST 臨床工学技士 MSW 事務 委託	2名 19名 2名 1名 4名 1名 1名 1名 3名	34名

開催月	開催内容	対象者	参加職種	合計	
11月	第2回 医療安全管理研修 「医療従事者の記録について」  (DVDフォローアップ研修) (11月28・29日、12月3・4・7日)	本研修未受講者	医師 看護師 薬剤師 臨床検査技師 診療放射線技師 PT・OT・ST 臨床工学技士 栄養士 MSW 事務 介護福祉士 看護補助者 その他(職種記名なし) 委託	3名 153名 12名 11名 15名 32名 3名 4名 5名 33名 2名 19名 5名 97名	394名
	第2回 医療安全管理研修フォローアップ (資料配布・アンケート回収)	本研修・DVD フォローアップ 研修未受講者		113名	113名
	【ワークショップ】 講義・演習(挿管、挿管介助、 NPPVマスクフィット体験・RRS、酸素療法、 CPRアシストを用いた心臓マッサージ実習)  [講師: EST/RST] (11月30日)	全職員	医師 看護師 その他	9名 45名 12名	66名
合計					2106名

安全管理オリエンテーション(雇入れ時研修)

開催月	開催内容	対象者	参加職種	合計	
4月	医療安全管理体制と医療安全対策 [講師: 安全管理担当]	新採用職員	医師 看護師 リハビリテーション部 薬剤部	4名 19名 5名 1名	29名
		新採用・異動職員	事務職	8名	8名
		転入・昇任職員	看護師 リハビリテーション部 事務職	1名 1名 3名	5名
通年	医療安全管理体制と医療安全対策 [講師: 安全管理担当]	新採用職員	医師 看護師	1名 2名	3名
	当院の医療安全・感染対策 [講師: 安全管理担当]	臨床研修医	医師	8名	8名
合計					53名

(6) インシデント報告の状況

30年度 延べ入院患者 85,091人、延べ外来患者数 45,750人(脳ドック含む)  
 29年度 延べ入院患者 85,023人、延べ外来患者数 45,811人(脳ドック含む)

【事象別】

インシデント報告件数	30年度	29年度	増減	30年度 構成比
	1,415件	1,534件	△ 119	100.0%
指示・情報伝達	-	72件	△ 72	0.0%
薬剤・輸血	407件	457件	△ 50	28.8%
(内訳)				
処方	41件	34件	7	2.9%
調剤・製剤管理等	33件	65件	△ 32	2.3%
与薬(注射・点滴・中心静脈注射)	102件	118件	△ 16	7.2%
与薬(内服薬)	193件	204件	△ 11	13.6%
与薬(その他)	26件	30件	△ 4	1.8%
麻薬	5件	3件	2	0.4%
輸血・血液製剤	7件	3件	4	0.5%
治療・処置	94件	73件	21	6.6%
医療機器等の使用・管理	51件	33件	18	3.6%
ドレーン・チューブ類等の使用・管理	275件	339件	△ 64	19.4%
検査	126件	77件	49	8.9%
療養上の場面	372件	414件	△ 42	26.3%
(内訳)				
転倒・転落	304件	350件	△ 46	21.5%
その他	68件	64件	4	4.8%
給食・栄養	32件	20件	12	2.3%
その他	58件	49件	9	4.1%

【職種別】

インシデント報告	30年度	29年度	増減	30年度 構成比
	1,415件	1,534件	△ 119	100.0%
医師	8件	13件	△ 5	0.6%
看護師・助産師	1,243件	1,347件	△ 104	87.8%
放射線技師	64件	62件	2	4.5%
薬剤師	36件	30件	6	2.5%
臨床検査技師	13件	5件	8	0.9%
PT・OT・ST・視能訓練士・心理療法士	39件	60件	△ 21	2.8%
臨床工学技士	5件	6件	△ 1	0.4%
管理栄養士・調理師	3件	6件	△ 3	0.2%
事務	4件	5件	△ 1	0.3%
その他	-	-	0	0.0%

30年度  
インシデント報告件数  
(事象別割合)

